

変形労働制ではなく、せんせいふやそう!

# 止めよう! 変形労働制 8

「止めよう! 変形労働制」ニュース No.8

全北海道教職員組合

2019.10.31

## 公立学校への変形労働導入についてのアンケート

## 変形労働導入について、反対が9割以上に

### ●アンケート開始から1週間～制度導入反対が9割超

道教組・道高教組は、公立学校への変形労働制導入にあたって、緊急アンケートのとりくみをおこなっています。開始から1週間の10月30日現在、51件の回答が寄せられました。

反対意見は47件 (92.2%)、賛成意見は3件 (5.9%)、どちらでもないが1件 (2.0%) となっています。

公立学校の教員に「1年単位の変形労働時間制」を導入することについて

51件の回答



### ●アンケートに寄せられた声

#### ①変形労働導入に反対

- ・今でさえ、無理して長時間労働なのに、まとめて働いて、まとめて休むなんて、そもそも体がこわれてしまうでしょう!
- ・現場の状況はなにも解決しません。むしろ拘束時間が伸び、保育園に迎えに行くこともできなくなります。教師を辞めなければならないことになります。
- ・今でさえ過労死ラインを越えてタダ働き同然の超勤が、変形労働時間制の名のもとに、合法化されるなんて許せない! 急いでやることは、教育予算を増やし、正規の先生を増やすことだ!!
- ・1時間勤務時間を伸ばしたらそこに会議が入り、授業の準備や学級・学年の打ち合わせはそのあと。結局帰りが遅くなってしまいます。また、育児や介護をしている人は、年休取らなければなりません。自分の時間なんて取れない毎日が続きます。授業の質がまた下がってしまいそう。長期休業中に休めますなんて、本当にできますか? そもそも、疲れはまとめて取るなんてできません。
- ・教員を増やすなど、教育予算を増やしてほしい。
- ・現在の退勤時間からさらに遅くなるのは反対です。今は通勤時間も長い人が多いです。長期休業中に勤務時間を短くしても解決にはならない。夏休み中に休みたいなら年休を取ればいい話。年休も使いきれないのだから。
- ・北海道で夫婦ともに教員をやっている場合、通勤時間が片道90分以内という原則がありますよね。勤務時間が18時までとなった場合、帰宅できるのは早くて20時頃に。それがまともな働き方、まともな生き方なはずがありません。保育をしている世帯だけでなく、車で通勤しなければならない家庭も多い北海道の事情に照らし合わせると、一般家庭をも崩壊させるようなこの制度は、なじむものであるとは到底思えません。
- ・見せかけの働き方改革にすぎません! 給特法の変更なくして解決はありえません。人間らしく生きられない先生が、子どもたちに夢を語れるのですか・・・

- ・見せかけの残業削減で解決できる問題ではない！
- ・普段の勤務時間を増やしても、休暇中の休みが取れるわけではありません。仕事内容が減らないことには、意味がないと思います。
- ・超過勤務解消のための抜本的な解決方法を提示すべきである。
- ・変形労働時間制は数字のごまかしです。数字のごまかしで残業が減りましたと言われるのは納得がいきません。現在の時数、部活指導で7時間45分以内に終わりますか？残業を減らすなら無理な業務量を減らし、人を増やすことです!!
- ・勤務時間の削減にはなりません。それより、人を増やしてください！仕事を減らしてください！
- ・教師は季節労働者だと思っているのでしょうか！毎日が超過勤務です。子どもを返した後、ほぼ毎日何らかの会議があり一番大事な教材研究ができない状況です。保育の必要な子育て中の教師や介護をしなければならない教師は、より一層働きづらくなります。仕事の量を減らさず、お金も人も注ぎ込まず、小手先で時間をいじってお茶を濁そうとしているとしか思えません。
- ・今でさえ、先生はくたくたです。それは、子どもの教育にもいい環境とはなりません。忙しい先生に遠慮して、声をかけられない子もいます。子どものちょっとしたサインを見逃したり、怒らなくていい場面で怒ったり、子どもが決めるまで待たずに進めてしまったりするなど、先生の心がなくなっていくます。実効性のある働き方改革として、まずは35人学級を全学年で実施し、成果を確かめてほしいです。



## ②変形労働導入に賛成

- ・担任を持たない立場としては、現時点では恩恵を受ける側ですので、賛成できます。ただし、この制度を適用するかどうかは、個人の教員の裁量で決めるべきで、学校のトップダウンで決めるべき物ではないと感じます。しかし、夏休みや冬休みに進学補習が入っている先生方に恩恵が受けられるかどうかと言えば、微妙なところでは。マンパワーが足りないだけでなく、そもそも教員の業務の効率化やそのための投資が滞っていることも問題です。一度残業代を出してみれば、如何に無駄な業務が多いかわかるのではないのでしょうか。1年単位の変形労働時間制は現時点では対症療法でしかありません。「マンパワーの増加」と「ICT機器の導入による公務の効率化」を並行してやる必要があると考えます。
- ・人を増やしても仕事も減らしても、仕事をしない人はしない。はたまた弱い教員を脅し教育活動揺さぶって仕事させ文句つけ、自分はさっさと帰る。残業して仕事している身とすればいいのではないかと思います。こういう議論する前に教員の品位の問題を議論してください。

## ③どちらでもない

- ・自校では寮があり、長期休業期間は部活動・補習・講習が無いために賛成だが、他の高校はそうではないため、全体で見た時には反対する。また、現在の超過勤務は繁忙期か閑散期かで考えられないほど多い。必要なのはお金を出すか、人を増やすかである。

## ●引き続き、あなたの声をお寄せください

反対も、賛成も、どちらの意見も、共通する願いは、学校の異常な長時間労働を解決したいということです。長時間労働を本質的に解決するためにどうすればよいか、「1年単位の変形労働時間制」の導入で学校の勤務や教育がどうなるのか、職場・地域での議論が大切です。

アンケートのとりにくみは、当面、今国会会期末の12月9日(月)まで実施します。引き続き、あなたの声を道教組にお寄せください。右のQRコードからもアンケートに参加できます。寄せられた声は、このお便りで紹介するほか、制度導入を許さないとりくみで活用します。



右のQRコードから、あなたの声をお寄せください。